

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇
発生予察注意報第 5 号

作物名 水稻（中晩生）
病虫害名 穂いもち

- 1 発生地域 府内全域
- 2 発生量 平年比多い
- 3 防除時期 穂ばらみ期～穂揃期
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 8月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生量は山城（中晩生品種）で平年比やや多かった（表）。
- (2) 中丹・南丹地域でも葉いもち、穂いもちの発生が認められている。
- (3) 8月1日から26日までの日照時間（積算値）は、京田辺で平年の56.0%（本年：101.6時間、平年：181.3時間）、園部で同41.1%（本年：64.5時間、平年：157.0時間）、舞鶴で同42.6%（本年：70.4時間、平年：165.2時間）と日照不足となっている。
- (4) 箱施用薬剤の効果が低下する時期を迎えている。
- (5) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または少ない、日照時間は平年並と予想されている（8月28日大阪管区气象台発表）。



写真 葉いもち（左）と穂いもち（右）

表 葉いもち巡回調査結果(8月第3半旬)

項目		本年	平年値
山城	発生ほ場率(%)	50.0	31.7
	発病株率(%)	13.3	5.0
	発病葉率(%)	0.33	0.05
南丹	発生ほ場率(%)	22.2	33.7
	発病株率(%)	10.7	7.1
	発病葉率(%)	0.18	0.20
中丹	発生ほ場率(%)	0.0	16.4
	発病株率(%)	0.0	2.5
	発病葉率(%)	0.00	0.05
丹後	発生ほ場率(%)	0.0	10.3
	発病株率(%)	0.0	1.7
	発病葉率(%)	0.00	0.04

5 防除上の留意事項

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している田、山間部では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 出穂後曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤（カスガマイシン剤：商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤：商品名 ブラシン剤等）で防除する。
- (5) 平成25年度に中丹地域の一部でストロビルリン系薬剤（QoI剤）耐性菌が発生した。耐性菌の発生地域では平成26年度は、いもち病に対するQoI剤の使用を中止し、他系統の薬剤（抵抗性誘導剤、MBI-R剤等）を使用する。QoI剤を使用したほ場で、防除効果の低下が疑われる場合は、他系統の薬剤で追加防除を行うとともに、速やかに病害虫防除所または、関係機関に連絡する。

詳細は京都府病害虫防除所ホームページ

(アドレス http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news20131113_1.pdf)
を参照のこと。

- (6) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (7) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

<参考>

京都府奨励品種の中生品種：日本晴、祭り晴、京の輝き、祝、カグラモチ、新羽二重糯
" 晩生品種：ヒノヒカリ